

平成 22 年（2010 年）7 月 15 日

札幌市環境局環境事業部

報道機関各位 様

「新ごみルール」開始1年の状況について

平成 21 年 7 月から家庭ごみ有料化や「雑がみ」「枝・葉・草」の分別収集などの「新ごみルール」を開始し、1 年が経過しました。

市民の皆さんのご理解とご協力により、ごみ減量・リサイクルが着実に進んでいます。

特に、焼却ごみ量が目標に迫る減量が見込まれることとなったことから、平成 22 年 3 月末をもって篠路清掃工場の運転を休止しました。

また、「新ごみルール」開始後にいくつか課題も出ましたが、「枝・葉・草」の収集期間の延長、ごみ収集日カレンダーの改善、「雑がみ」選別能力の増強（人員増、稼働時間延長、パンフレット配布による普及啓発）など、課題の解決へ向けて取り組んでいます。

スリムシティさっぽろ計画に掲げた目標の達成が確実となるよう、今後も市民の皆さんとともにごみ減量・リサイクルを推進していきたいと考えています。

目次

1	「新ごみルール」開始後1年のごみ量	1
2	「新ごみルール」開始後の課題とその対応	
(1)	「雑がみ」選別能力の向上と主要古紙の集団資源回収への誘導	2
(2)	生ごみ減量に向けた取り組み	2
(3)	家庭ごみ収集日カレンダーの改善	3
(4)	ごみステーション対策	3
	(参考資料)	
資料1	スリムシティさっぽろ計画のごみ量管理目標の達成状況（平成16年度比較）	5
資料2	集団資源回収量	5
資料3	ごみステーション管理器材の購入助成状況	6
資料4	箱型ごみステーション設置費助成状況	6
資料5	ごみステーション数の推移	6
資料6	さっぽろごみパト隊の活動状況	7
資料7	平成21年度決算（見込み）有料化手数料 約29億円の使いみち	8
資料8	平成21年度指定ごみ袋取扱店への納品枚数	8
資料9	平成22年度予算 有料化手数料 約37億円の使いみち	9

1 「新ごみルール」開始後1年のごみ量

「新ごみルール」以降の収集ごみ量について、前年度の同期間（7月-6月）と比べて、「燃やせるごみ」は36%減、「燃やせないごみ」は74%減となっており、廃棄ごみ全体としては41%減となっています。

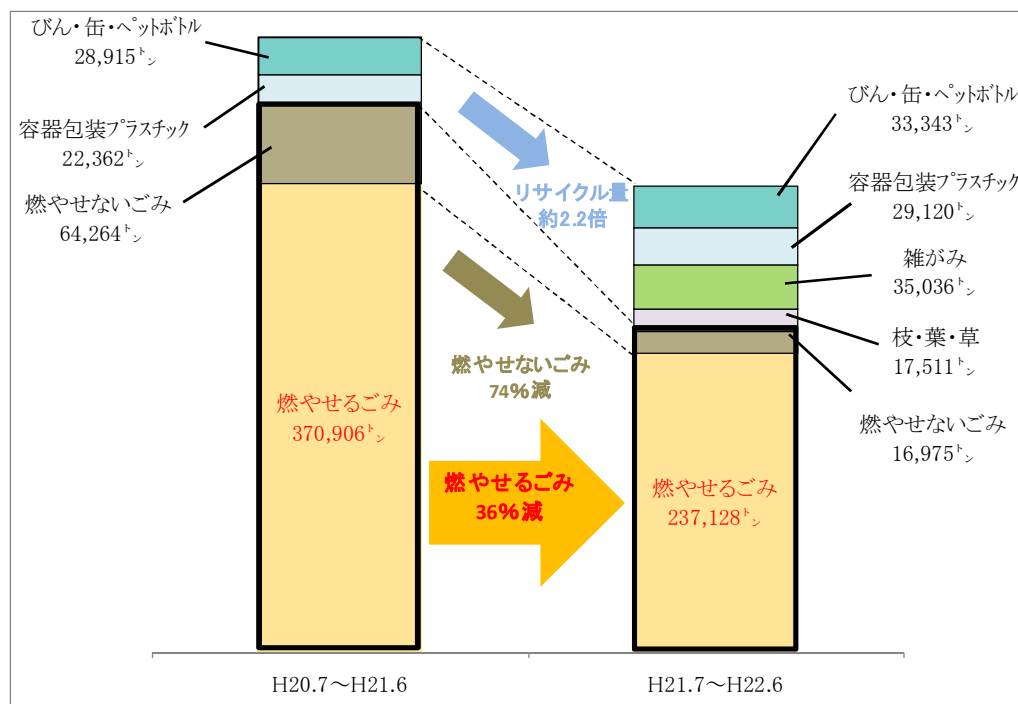
また、「びん・缶・ペットボトル」は15%増、「容器包装プラスチック」は30%増となっており、「枝・葉・草」「雑がみ」を合わせた資源物の収集量は2倍以上となっています。

(1) 「新ごみルール」以降の収集ごみ量（平成21年7月～平成22年6月）

ごみ種別		H20.7～H21.6	H21.7～H22.6	対前年同時期比
廃棄ごみ量	燃やせるごみ	370,906 ^ト	237,128 ^ト	64% (▲36%)
	燃やせないごみ	64,264 ^ト	16,975 ^ト	26% (▲74%)
	大型ごみ	11,144 ^ト	9,477 ^ト	85% (▲15%)
	廃棄ごみ計 (A)	446,314 ^ト	263,580 ^ト	59% (▲41%)
	1人1日当たり廃棄ごみ (g)	649g	388g	60% (▲40%)
資源物	びん・缶・ペットボトル	28,915 ^ト	33,343 ^ト	115% (+15%)
	容器包装プラスチック	22,362 ^ト	29,120 ^ト	130% (+30%)
	枝・葉・草	—	17,511 ^ト	—
	雑がみ	—	35,036 ^ト	—
	資源物計 (B)	51,277 ^ト	115,010 ^ト	224% (+124%)
収集ごみ量計 (A) + (B)		497,591 ^ト	378,590 ^ト	76% (▲24%)

※ ごみ量の端数は四捨五入としたため、合計数値とその内訳の計とが一致しない場合があります。

(2) 「新ごみルール」以降の収集ごみ量の推移（平成21年7月～平成22年6月）



※ 大型ごみ、地域清掃ごみ、管路ごみを除く。

2 「新ごみルール」開始後の課題とその対応

(1) 「雑がみ」選別能力の向上と主要古紙の集団資源回収への誘導

主要古紙類の混入に伴う選別作業効率の低下、「雑がみ」収集量の増加などに対応するため、「雑がみ」選別能力の増強を行い、平成21年度では、製紙原料に約6割、固形燃料の原料に約4割リサイクルされましたが、平成22年4月以降は、製紙原料が約7割、固形燃料の原料が約3割となっています。

さらに、安定的な処理体制を構築するため、「雑がみ」選別能力の向上策と集団資源回収への誘導策を実施します。

選別能力向上策

- 休止した篠路清掃工場の一部に、「雑がみ」選別処理ラインを整備し、「雑がみ」の選別能力を増強
- さらに「雑がみ」の選別精度を向上させるため、新たな選別センターの整備に向けた調査を開始

集団資源回収への誘導策

- 集団資源回収の回収業者への奨励金について、段ボール・布類の奨励金単価を1円/kgから4円/kgに増額し、集団資源回収への誘導を強化しました。

<参考>～平成22年度の資源回収奨励金～

- ◆ 実施団体（町内会、PTAなど）への奨励金額：3円/kg（据え置き）
- ◆ 回収業者への奨励金額（平成22年7月分から対象）
 - ・ 段ボール、布：1円/kg ⇒ 4円/kg（3円増額）
 - ・ 雑誌、紙パック、びん類、金属類：1円/kg（据え置き）
 - ・ 新聞紙：1円/kg ⇒ 0円/kg（1円減額）

(2) 生ごみ減量に向けた取り組み

「新ごみルール」以降、「燃やせるごみ」に占める「生ごみ」の割合は約48%となっており、さらなる「燃やせるごみ」の減量を目指し、以下の生ごみの減量・資源化の取り組みについての支援を行っています。

生ごみ減量・水切り宣言

宣言者数（7月9日現在）
合計：5,317世帯 13,738人

- ・ 団体の宣言：91団体
3,782世帯 9,675人
- ・ 個人の宣言：1,535世帯 4,063人

生ごみ堆肥化普及・促進

- 生ごみ堆肥化セミナー（7月9日現在）
生ごみ堆肥化セミナーを年40回程度開催し、セミナー参加者に堆肥化基材を配布。
これまでの参加人数：407人（11回開催）

(3) 家庭ごみ収集日カレンダーの改善

平成22年10月以降の収集日カレンダーについて、札幌市立大学にデザインの研究委託をし、4月26日に開催した懇談会においても検討を行い、デザイン・配布方法を変更することとしました。



改善点

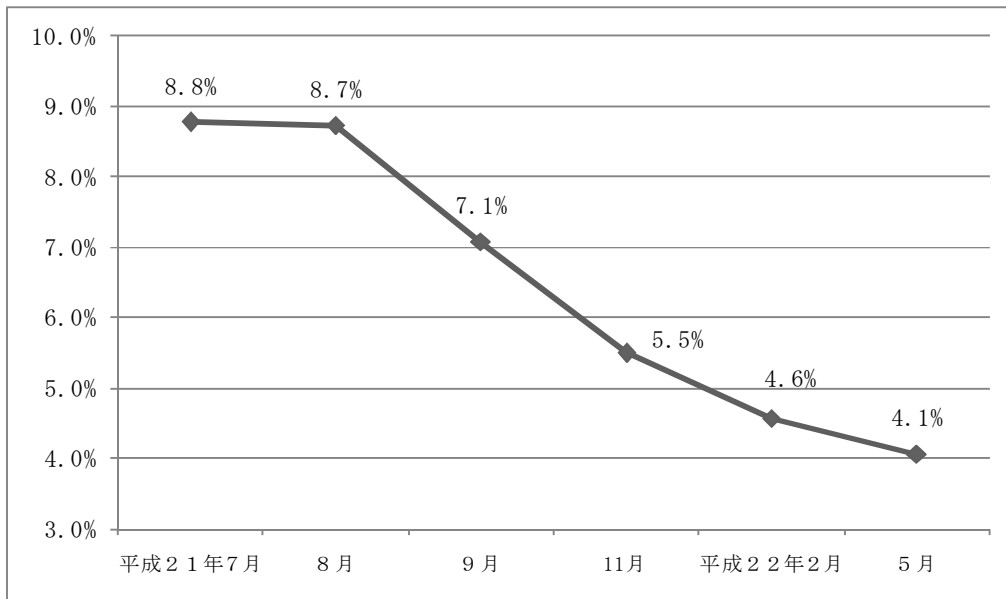
- ・ 1枚に1地区のみ掲載
- ・ 文字をさらに大きく
- ・ 収集日ごとにごみ種を掲載
- ・ 13カ月分をA3版表裏2面に
- ・ 分別方法ワンポイントアドバイスの掲載
- ・ 町内会等による配布

(4) ごみステーション対策

不適正排出の割合は減少しており、「新ごみルール」は市民に着実に定着してきています。

さらに改善していくため、ごみステーション管理の支援やさっぽろごみパト隊による指導などを継続するとともに、今後の収集方式のあり方などについて、調査・研究を行います。

○ 全ごみ種の不適正排出の割合



※不適正排出とは、「曜日・分別違いのもの」などを指します。

○ ごみ種別の不適正排出の割合

ごみ種	平成21年				平成22年	
	7月	8月	9月	11月	2月	5月
燃やせるごみ	4.9%	5.0%	4.8%	3.1%	2.5%	2.7%
燃やせないごみ	31.4%	25.8%	17.5%	7.0%	5.9%	4.4%
びん・缶・ペットボトル	11.3%	10.2%	9.2%	7.6%	5.5%	4.8%
容器包装プラスチック	7.9%	8.8%	6.1%	6.2%	5.4%	4.4%
雑がみ	11.9%	9.8%	9.5%	6.2%	5.7%	5.5%
枝・葉・草	11.8%	9.1%	4.9%	4.6%	—	4.3%
全ごみ種	8.8%	8.7%	7.1%	5.5%	4.6%	4.1%

※1 ごみ種別の不適正排出の割合の算出方法

例)「燃やせるごみ」の場合:「燃やせるごみ」の不適正排出の袋数/「燃やせるごみ」の総排出袋数

※2 平成21年7月～平成22年5月に実施した収集車による排出状況サンプル調査(袋数)の結果

○ 家庭ごみ収集方法等に係る調査研究

ごみ収集やごみステーションなどに関する課題に対応していくために、札幌市と財団法人地方自治研究機構が共同で「家庭ごみ収集方法等に関する調査研究委員会」を設置して、収集方法の改善による方策及びその他の方策について、調査研究を行います。

- ・他都市へのアンケート調査及び現地調査
- ・ごみ収集やごみステーションに関する市民意識調査
- ・各種収集方式(ステーション方式、小規模ステーション方式、戸別収集方式)の比較調査(シミュレーション調査) など

(参考資料)

資料 1 スリムシティさっぽろ計画のごみ量管理目標の達成状況(平成 16 年度比較)

	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 22 年度 中間目標値	平成 22 年度 計画量	平成 29 年度 最終目標値
廃棄ごみ量 全体	82.4 万トン	56.3 万トン (31.6%減)	65.9 万トン (20%減)	52.1 万トン (36.8%減)	57.7 万トン (30%減)
家庭からの 1 人 1 日廃棄ご み量	645 グラム	491 グラム	500 グラム	430 グラム	400 グラム
リサイクル率	16.0%	25.1%	25%	30.8%	30%
焼却ごみ量	70.2 万トン	48.7 万トン (21.5 万トン減)	54.2 万トン (16 万トン減)	46.8 万トン (23.3 万トン減)	46.2 万トン (24 万トン減)
埋立処分量	22.2 万トン	13.6 万トン (38.5%減)	17.7 万トン (20%減)	10.7 万トン (51.6%減)	15.5 万トン (30%減)

資料 2 集団資源回収量

区 分	全期	1 月～6 月	7 月～12 月
平成 20 年	57,827 トン	28,527 トン	29,300 トン
平成 21 年	58,509 トン	28,174 トン	30,335 トン
増減	682 トン	▲353 トン	1,035 トン

区分		平成 20 年全期	平成 21 年全期	増減
紙類	新聞紙	45,572 トン	43,733 トン	▲1,839 トン
	雑誌	6,168 トン	6,553 トン	385 トン
	段ボール	5,644 トン	7,761 トン	2,117 トン
	紙パック	186 トン	214 トン	28 トン
	小計	57,570 トン	58,261 トン	691 トン
その他		257 トン	248 トン	▲9 トン
合計		57,827 トン	58,509 トン	682 トン

資料3 ごみステーション管理器材の購入助成状況

年度	ごみ飛散防止ネット	カラスよけサークル	助成金額
平成20年8月～平成22年6月末	12,776枚	9,458基	72,371,700円
平成20年度	7,227枚	3,145基	30,705,100円
平成21年度	4,179枚	4,527基	29,518,200円
平成22年度	1,370枚	1,786基	12,148,400円

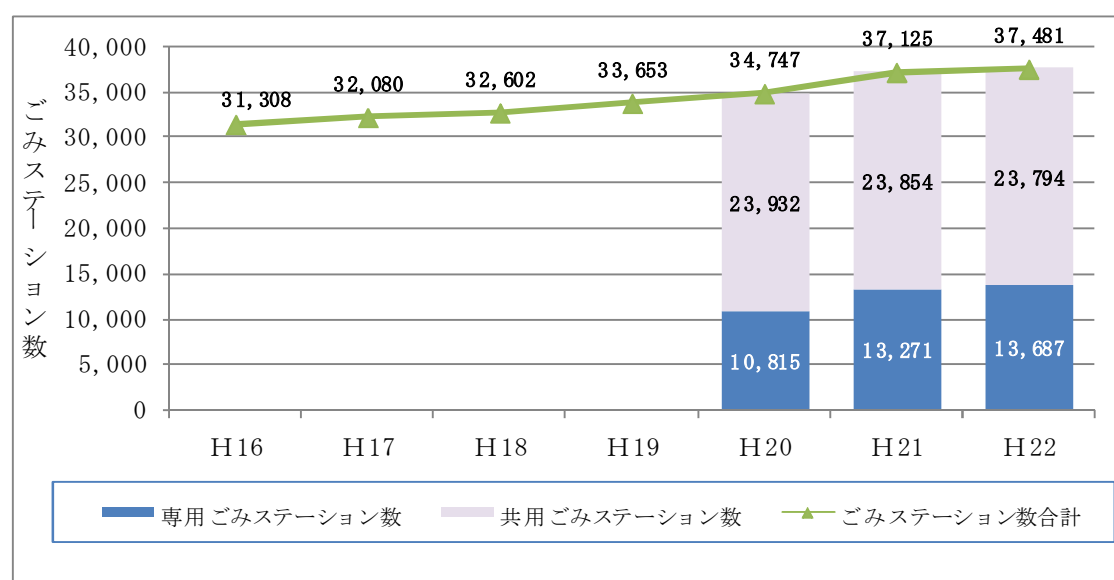
※平成22年度は6月末現在

資料4 箱型ごみステーション設置費助成状況

年度	申し込み件数	助成金額
平成21年12月～平成22年6月末	675件	7,608,400円
平成21年度	322件	3,751,800円
平成22年度	353件	3,856,600円

※平成22年度は6月末現在

資料5 ごみステーション数の推移



※平成22年度は5月末現在

資料6 さっぽろごみパト隊の活動状況

パト隊人数	年月	ステーションパトロー ル(延べ箇所数)	開封調査	
			開封袋数	排出者特定袋数
59名	H21.4月	84,453	1,253	341
〃	5月	76,331	1,405	413
〃	6月	73,054	913	208
110名	7月	223,631	13,992	2,793
〃	8月	166,895	19,523	3,786
〃	9月	177,589	21,458	3,575
〃	10月	167,796	16,285	2,766
〃	11月	157,165	15,574	2,215
〃	12月	172,339	10,271	1,362
〃	H22.1月	174,656	8,678	1,527
〃	2月	166,353	7,117	1,276
〃	3月	199,253	10,290	1,714
90名	4月	166,039	7,764	1,455
〃	5月	164,874	11,876	1,458
	計	2,170,428	146,399	24,889

資料7 平成21年度決算（見込み） 有料化手数料 約29億円の使いみち

約17億円	<p>● 新たな分別の開始と市民の取り組みの支援</p> <p>（うち約12億円）新たな収集・処理体制を構築するための経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「雑がみ」の分別収集と資源化 ・ 「枝・葉・草」の分別収集と資源化 ・ 旧発寒第二清掃工場跡地にリサイクル保管庫を整備 ・ 生ごみ堆肥の使用法や利用先などの調査・研究 ・ 製品プラスチックの焼却に伴うダイオキシン類対策の実施 など <p>（うち約3億円）家庭ごみの発生・排出抑制や資源化促進のための経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団資源回収奨励金の増額 ・ 生ごみリサイクルパートナーシップ収集の実施 ・ 電動生ごみ処理機などの購入費助成 ・ 厚別リユースプラザの運営管理 ・ 地区リサイクルセンターの運営管理 ・ 家庭用 廃食油の拠点回収支援 など <p>（うち約2億円）家庭ごみの分別が進むことにより増加する収集・選別のための経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「容器包装プラスチック」の収集と資源化 ・ 「びん・缶・ペットボトル」の収集と資源化 など
約1億円	<p>● ごみステーション問題の改善や市民サービス向上のための経費</p> <p>さっぽろごみパト隊による監視パトロール、排出指導の実施</p> <p>ごみステーション数の増加に伴う収集経費の増加 など</p>
約2億円	<p>● 普及啓発・環境教育のための経費</p> <p>収集日カレンダー及びごみ分けガイドの全世帯配布</p> <p>各種啓発冊子の配布、啓発イベントの開催</p> <p>リサイクルプラザ宮の沢の運営管理</p> <p>ごみ減量・リサイクルに関する副教材の作成 など</p>
約9億円	<p>● 家庭ごみ有料化を実施するための経費</p> <p>指定袋の製造、収納管理経費など</p>

資料8 平成21年度指定ごみ袋取扱店への納品枚数

指定ごみ袋容量	納品枚数
5リットル	20,062,500枚
10リットル	30,856,000枚
20リットル	28,519,000枚
40リットル	11,335,410枚

資料 9 平成 22 年度予算 有料化手数料 約 37 億円の使いみち

<p>約 25 億円</p>	<p>● 新たな分別の開始と市民の取り組みの支援</p> <p>(うち約 15 億円) 新たな収集・処理体制を構築するための経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「雑がみ」の分別収集と資源化 ・ 「枝・葉・草」の分別収集と資源化 ・ 旧発寒第二清掃工場跡地にリサイクル保管庫を建設 ・ 生ごみ堆肥の使用法や利用先などの調査・研究 ・ 製品プラスチックの焼却に伴うダイオキシン類対策の実施 など <p>(うち約 4 億円) 家庭ごみの発生・排出抑制や資源化促進のための経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団資源回収奨励金の増額 ・ 古紙回収ボックスの増設 ・ 生ごみリサイクル・パートナーシップ収集の実施 ・ 生ごみ減量水切り宣言の実施 ・ 電動生ごみ処理機などの購入費助成 ・ 厚別リユースプラザの運営管理 ・ 地区リサイクルセンターの運営管理 など <p>(うち約 6 億円) 家庭ごみの分別が進むことにより増加する収集・選別のための経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「容器包装プラスチック」の収集と資源化 ・ 「びん・缶・ペットボトル」の収集と資源化 など
<p>約 2 億円</p>	<p>● ごみステーション問題の改善や市民サービス向上のための経費</p> <p>さっぽろごみパト隊による監視パトロール、排出指導の実施</p> <p>家庭ごみの収集方法の調査の実施</p> <p>ごみステーション数の増加に伴う収集経費の増加 など</p>
<p>約 1 億円</p>	<p>● 普及啓発・環境教育のための経費</p> <p>家庭ごみ収集日カレンダーの作成・配布</p> <p>各種啓発冊子の配布、啓発イベントの開催</p> <p>リサイクルプラザ宮の沢の運営管理 など</p>
<p>約 9 億円</p>	<p>● 家庭ごみ有料化を実施するための経費</p> <p>指定袋の製造、収納管理経費など</p>

【お問い合わせ先】

1 「新ごみルール」開始後1年のごみ量	企画課	211-2912
2 「新ごみルール」開始後の課題とその対応		
(1) 「雑がみ」選別能力の向上と主要古紙の集団資源回収への誘導		
○ 選別能力向上策	施設管理課	211-2922
○ 集団資源回収への誘導策	ごみ減量推進課	211-2928
(2) 生ごみ減量に向けた取り組み	ごみ減量推進課	211-2928
(3) 家庭ごみ収集日カレンダーの改善	業務課	211-2916
(4) ごみステーション対策	業務課	211-2916
(参考資料)		
資料1 スリムシティさっぽろ計画のごみ量管理目標の達成状況(平成16年度比較)		
	企画課	211-2912
資料2 集団資源回収量	ごみ減量推進課	211-2928
資料3 ごみステーション管理器材の購入助成状況	業務課	211-2916
資料4 箱型ごみステーション設置費助成状況	業務課	211-2916
資料5 ごみステーション数の推移	業務課	211-2916
資料6 さっぽろごみパト隊の活動状況	業務課	211-2916
資料7 平成21年度決算(見込み)有料化手数料 約29億円の使いみち		
	企画課	211-2912
資料8 平成21年度指定ごみ袋取扱店への納品枚数	企画課	211-2912
資料9 平成22年度予算 有料化手数料 約37億円の使いみち	企画課	211-2912